

演習ミクロ経済学Ⅰ 第1回 解答*

2017年4月13日

問題 1

証明. $\mathbf{x}^1 \succ \mathbf{x}^2$ より,

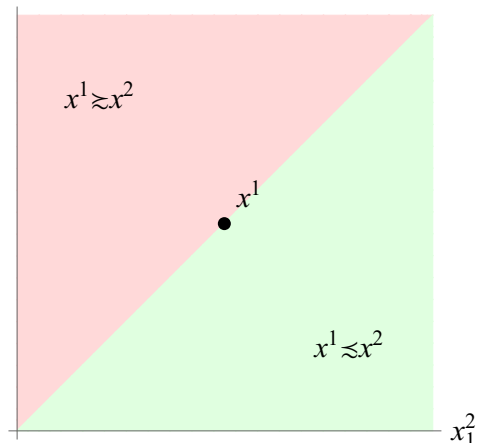
$$\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2 \quad (1)$$

$$\mathbf{x}^2 \not\succsim \mathbf{x}^1 \quad (2)$$

である. \succsim は推移性を満たすので, (1) と $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^3$ より $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^3$ が成り立つ. あとは $\mathbf{x}^3 \not\succsim \mathbf{x}^1$ が言えれば良い. 背理法の仮定として, $\mathbf{x}^3 \succsim \mathbf{x}^1$ とすると, $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^3$ から推移性によって $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^1$ が従う. しかしこれは (2) に矛盾する. よって $\mathbf{x}^3 \not\succsim \mathbf{x}^1$ となるので $\mathbf{x}^1 \succ \mathbf{x}^3$ が成立する. \square

問題 2

$$(a) \quad \mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2 \iff x_1^1 - x_2^1 \geq x_1^2 - x_2^2$$



完備性: 満たす

証明. 任意に $\mathbf{x}^1, \mathbf{x}^2 \in X$ を選ぶ. この二つについて $x_1^1 - x_2^1 \geq x_1^2 - x_2^2$ が成り立っているな

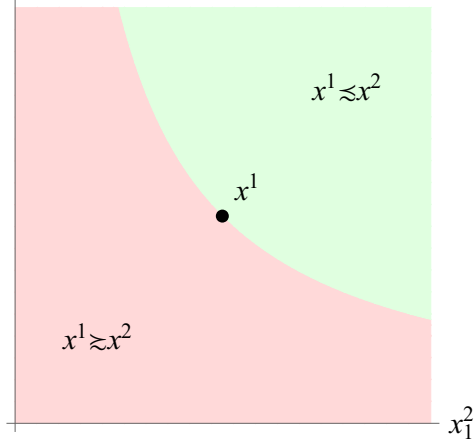
* 間違いを見つけたら orihsamuk@gmail.com まで連絡してください.

らば $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ である。一方 $x_1^1 - x_2^1 < x_1^2 - x_2^2$ が成り立っているならば $\mathbf{x}^2 \succ \mathbf{x}^1$ なので、常に $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ または $\mathbf{x}^2 \succ \mathbf{x}^1$ が成り立つ。□

推移性：満たす

証明. $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ と $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^3$ を満たす $\mathbf{x}^1, \mathbf{x}^2, \mathbf{x}^3 \in X$ を任意に選ぶ。 $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ より $x_1^1 - x_2^1 \geq x_1^2 - x_2^2$ であり、 $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^3$ より $x_1^2 - x_2^2 \geq x_1^3 - x_2^3$ である。よって $x_1^1 - x_2^1 \geq x_1^3 - x_2^3$ となり、選好の定義よりこれは $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^3$ を意味する。□

(b) $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2 \iff x_1^1 x_2^1 \geq x_1^2 x_2^2$



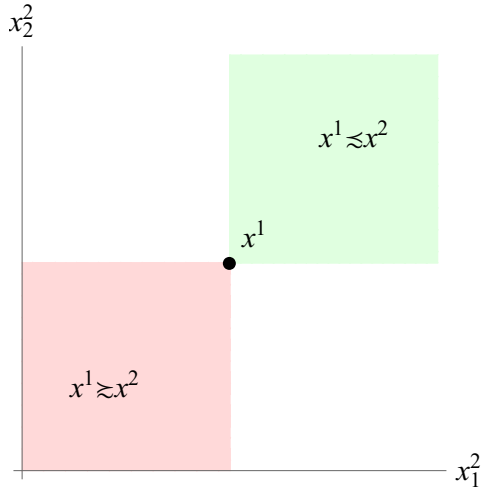
完備性：満たす

証明. 任意に $\mathbf{x}^1, \mathbf{x}^2 \in X$ を選ぶ。この二つについて $x_1^1 x_2^1 \geq x_1^2 x_2^2$ が成り立っているならば $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ である。一方 $x_1^1 x_2^1 < x_1^2 x_2^2$ が成り立っているならば $\mathbf{x}^2 \succ \mathbf{x}^1$ なので、常に $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ または $\mathbf{x}^2 \succ \mathbf{x}^1$ が成り立つ。□

推移性：満たす

証明. $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ と $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^3$ を満たす $\mathbf{x}^1, \mathbf{x}^2, \mathbf{x}^3 \in X$ を任意に選ぶ。 $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ より $x_1^1 x_2^1 \geq x_1^2 x_2^2$ であり、 $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^3$ より $x_1^2 x_2^2 \geq x_1^3 x_2^3$ である。よって $x_1^1 x_2^1 \geq x_1^3 x_2^3$ となり、選好の定義よりこれは $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^3$ を意味する。□

(c) $\mathbf{x}^1 \succ \mathbf{x}^2 \iff x_1^1 \geq x_1^2 \text{ and } x_2^1 \geq x_2^2$



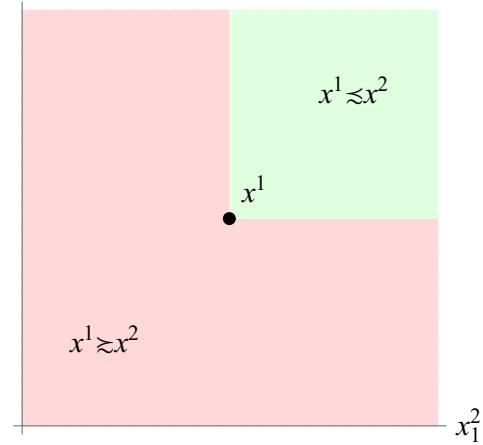
完備性：満たさない

証明. $\mathbf{x}^1 = (2, 1)$, $\mathbf{x}^2 = (1, 2)$ とすると, $x_1^1 = 2 \geq 1 = x_1^2$ であるが $x_2^1 = 1 \leq 2 = x_2^2$ なので $\mathbf{x}^1 \not\sim \mathbf{x}^2$ かつ $\mathbf{x}^2 \not\sim \mathbf{x}^1$ となり, 完備性を満たさない. \square

推移性：満たす

証明. $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ と $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^3$ を満たす $\mathbf{x}^1, \mathbf{x}^2, \mathbf{x}^3 \in X$ を任意に選ぶ. $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ より $x_1^1 \geq x_1^2$ かつ $x_2^1 \geq x_1^2$ であり, $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^3$ より $x_1^2 \geq x_1^3$ かつ $x_2^2 \geq x_1^3$ である. よって $x_1^1 \geq x_1^3$ かつ $x_2^1 \geq x_2^3$ となり, 選好の定義よりこれは $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^3$ を意味する. \square

(d) $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2 \iff \min\{x_1^1, x_2^1\} \geq \min\{x_1^2, x_2^2\}$



完備性：満たす

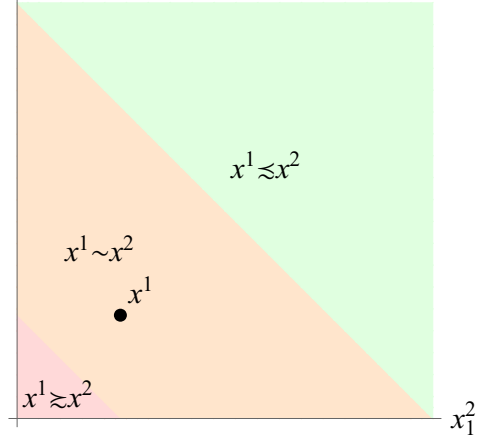
証明. 任意に $\mathbf{x}^1, \mathbf{x}^2 \in X$ を選ぶ. この二つについて $\min\{x_1^1, x_2^1\} \geq \min\{x_1^2, x_2^2\}$ が成り立っているならば $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ である. 一方 $\min\{x_1^2, x_2^2\} \geq \min\{x_1^1, x_2^1\}$ が成り立っているならば $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^1$ なので, 常に $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ または $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^1$ が成り立つ. \square

推移性：満たす

証明. $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ と $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^3$ を満たす $\mathbf{x}^1, \mathbf{x}^2, \mathbf{x}^3 \in X$ を任意に選ぶ. $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ より $\min\{x_1^1, x_2^1\} \geq \min\{x_1^2, x_2^2\}$ であり, $\mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^3$ より $\min\{x_1^2, x_2^2\} \geq \min\{x_1^3, x_2^3\}$ である.

よって $\min\{x_1^1, x_2^1\} \geq \min\{x_1^3, x_2^3\}$ となり, 選好の定義よりこれは $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^3$ を意味する. \square

(e) $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2 \iff 2(x_1^1 + x_2^1) \geq x_1^2 + x_2^2$



完備性：満たす

証明. 任意に $\mathbf{x}^1, \mathbf{x}^2 \in X$ を選ぶ. この二つについて $2(x_1^1 + x_2^1) \geq x_1^2 + x_2^2$ が成り立っているならば $\mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$ である. 一方 $2(x_1^1 + x_2^1) < x_1^2 + x_2^2$ が成り立っているとする. $\mathbf{x}^1, \mathbf{x}^2 \in \mathbb{R}_+^2$ より $x_1^1 + x_2^1 \leq 2(x_1^1 + x_2^1)$ かつ $2(x_1^2 + x_2^2) \geq x_1^2 + x_2^2$ となることに注意すると,

$$2(x_1^2 + x_2^2) \geq x_1^2 + x_2^2 > 2(x_1^1 + x_2^1) \geq x_1^1 + x_2^1$$

が成り立ち, $\mathbf{x}^2 \succ \mathbf{x}^1$ となる. \square

推移性：満たさない

証明. $\mathbf{x}^1 = (2, 2)$, $\mathbf{x}^2 = (4, 4)$, $\mathbf{x}^3 = (8, 8)$ とすると,

$$2(x_1^1 + x_2^1) = 8 = x_1^2 + x_2^2 \Rightarrow \mathbf{x}^1 \succsim \mathbf{x}^2$$

$$2(x_1^2 + x_2^2) = 16 = x_1^3 + x_2^3 \Rightarrow \mathbf{x}^2 \succsim \mathbf{x}^3$$

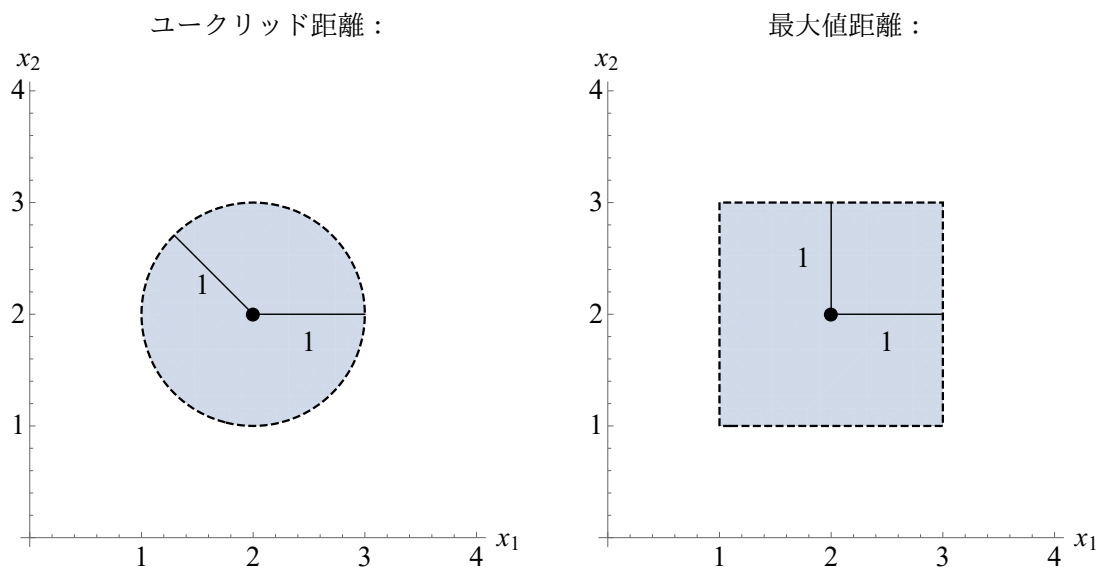
を満たす. ところが,

$$2(x_1^1 + x_2^1) = 8 < 16 = x_1^3 + x_2^3 \Rightarrow \mathbf{x}^1 \not\succsim \mathbf{x}^3$$

$$2(x_1^3 + x_2^3) = 32 > 4 = x_1^1 + x_2^1 \Rightarrow \mathbf{x}^3 \succ \mathbf{x}^1$$

なので $\mathbf{x}^3 \succ \mathbf{x}^1$ である. したがって推移性を満たさない. \square

問題 3



問題 4

(a) \mathbb{R} における集合 $S = [0, 1] \cup \{2\}$

S は開集合ではなく，閉集合である．

開集合でないことの証明． $x = 2$ とすると， $x \in S$ である．任意に $\varepsilon > 0$ を取り， $x' = x + \frac{\varepsilon}{2}$ とすると，

$$|x' - x| = \left| x + \frac{\varepsilon}{2} - x \right| = \frac{\varepsilon}{2} < \varepsilon$$

となるので $x' \in B_\varepsilon(x)$ である．しかし， $x' = 2 + \frac{\varepsilon}{2} > 2$ となるので $x' \notin S$ である．したがって S は開集合ではない． □

閉集合であることの証明． S の補集合を S^c と書くと， $S^c = (-\infty, 1) \cup (1, 2) \cup (2, +\infty)$ である． S^c が開集合であることを示す．任意に $x \in S^c$ を選ぶと， $x \in (-\infty, 1)$ ， $x \in (1, 2)$ ， $x \in (2, +\infty)$ のいずれかが成立する．以下では距離概念として絶対値を用いる．

(i) $x \in (-\infty, 1)$ のとき

$\varepsilon = \frac{1-x}{2}$ とすると， $x < 1$ より $\varepsilon > 0$ である．任意に $x' \in B_\varepsilon(x)$ を選ぶと，

$$\begin{aligned} |x' - x| < \varepsilon &\iff -\varepsilon < x' - x < \varepsilon \\ \Rightarrow \begin{cases} x' < x + \varepsilon = \frac{1+x}{2} < 1 \\ x' > x - \varepsilon > -\infty \end{cases} \end{aligned}$$

が成り立つ．よって $x' \in (-\infty, 1)$ である．

(ii) $x \in (1, 2)$ のとき

$\varepsilon = \frac{\min\{2-x, x-1\}}{2}$ とすると, $x \in (1, 2)$ より $\varepsilon > 0$ である. 任意に $x' \in B_\varepsilon(x)$ を選ぶと,

$$\begin{aligned} |x' - x| < \varepsilon &\iff -\varepsilon < x' - x < \varepsilon \\ \Rightarrow \begin{cases} x' < x + \varepsilon \leq x + \frac{2-x}{2} = \frac{2+x}{2} < 2 \\ x' > x - \varepsilon \geq x - \frac{x-1}{2} = \frac{x+1}{2} > 1 \end{cases} \end{aligned}$$

が成り立つ. よって $x' \in (1, 2)$ である.

(iii) $x \in (2, +\infty)$ のとき $\varepsilon = \frac{x-2}{2}$ とすると, $x \in (2, +\infty)$ より $\varepsilon > 0$ である. 任意に $x' \in B_\varepsilon(x)$ を選ぶと,

$$\begin{aligned} |x' - x| < \varepsilon &\iff -\varepsilon < x' - x < \varepsilon \\ \Rightarrow \begin{cases} x' < x + \varepsilon < +\infty \\ x' > x - \varepsilon > x - \frac{x-2}{2} = \frac{x+2}{2} > 2 \end{cases} \end{aligned}$$

が成り立つ. よって $x' \in (2, +\infty)$ である.

したがっていずれの場合もある ε に対して $B_\varepsilon(x) \subset S^c$ となるので, S^c は開集合である. \square

(b) \mathbb{R} における集合 $S = [0, 2)$ S は開集合でも閉集合でもない. 以下では距離概念として絶対値を用いる.

開集合でないことの証明. $x = 0$ とすると $x \in S$ である. 任意に $\varepsilon > 0$ を取り, $x' = x - \frac{\varepsilon}{2}$ とすると,

$$|x' - x| = \left| x - \frac{\varepsilon}{2} - x \right| = \frac{\varepsilon}{2} < \varepsilon$$

となるので $x' \in B_\varepsilon(x)$ である. しかし, $x' = 0 - \frac{\varepsilon}{2} = -\frac{\varepsilon}{2} < 0$ となるので $x' \notin S$ である. したがって S は開集合ではない. \square

閉集合でないことの証明. ^{*1} 数列 $\{x_k\}_{k=1}^\infty$ を, $x_k \equiv 2 - \frac{1}{k}$ と定義すると, 任意の $k = 1, 2, \dots$ について $1 \leq x_k < 2$ となるので $x_k \in S$ である. さらに, x_k は 2 に収束する^{*2}. しかし $2 \notin S$ なので S は閉集合ではない. \square

(c) \mathbb{R}^n における集合 $S = \mathbb{R}_+^n$ 開集合ではなく, 閉集合である. 以下では距離概念として最大値距離を用いる.

^{*1} 補集合を使って証明しても OK

^{*2} 任意に $\varepsilon > 0$ を取り, \bar{k} を $\bar{k} > 1/\varepsilon$ を満たす自然数とする. 任意の $k \geq \bar{k}$ について,

$$\begin{aligned} k \geq \bar{k} > \frac{1}{\varepsilon} &\iff \varepsilon > \frac{1}{k} \iff 2 - \varepsilon < 2 - \frac{1}{k} = x_k \iff x_k - 2 > -\varepsilon \\ 2 - \frac{1}{k} < 2 + \varepsilon &\iff x_k < 2 + \varepsilon \iff x_k - 2 < \varepsilon \end{aligned}$$

が成り立つ. すなわち任意の $k \geq \bar{k}$ に対し $|x_k - 2| < \varepsilon$ となるので x_k は 2 に収束する.

開集合でないことの証明. $\mathbf{x} = (0, 0, \dots, 0)$ とし, 任意に $\varepsilon > 0$ を選ぶ. 各 $i = 1, 2, \dots, n$ について $\mathbf{x}'_i = x_i - \frac{\varepsilon}{2}$ と定義すると,

$$|x'_i - x_i| = \left| x_i - \frac{\varepsilon}{2} - x_i \right| = \frac{\varepsilon}{2} < \varepsilon$$

なので, $d(\mathbf{x}', \mathbf{x}) = \max_i |x'_i - x_i| < \varepsilon$, つまり $\mathbf{x}' \in B_\varepsilon(\mathbf{x})$ である. ところが, 全ての i について $x'_i < 0$ なので $\mathbf{x}' \notin S$ である. したがって S は開集合ではない. \square

閉集合であることの証明. 全ての $k = 1, 2, \dots$ について $\mathbf{x}^k \in S$ であり, $\bar{\mathbf{x}}$ に収束する点列 $\{\mathbf{x}^k\}_{k=1}^\infty$ を任意に選ぶ. $\{\mathbf{x}^k\}_{k=1}^\infty$ は $\bar{\mathbf{x}}$ に収束するので, 任意の ε に対し十分大きな \bar{k} を取ると, 任意の $k \geq \bar{k}$ について $d(\mathbf{x}^k, \bar{\mathbf{x}}) < \varepsilon$ となる. すなわち, 各 $i = 1, 2, \dots, n$ について

$$\begin{aligned} |x_i^k - \bar{x}_i| &\leq d(\mathbf{x}^k, \bar{\mathbf{x}}) < \varepsilon \iff -\varepsilon x_i^k - \bar{x}_i < \varepsilon \\ \Rightarrow x_i^k &< \bar{x}_i + \varepsilon \end{aligned}$$

を満たす. 一方, 背理法の仮定として, $\bar{\mathbf{x}} \notin S$ とする. S の定義から, これは少なくとも一つの $i = 1, 2, \dots, n$ について $\bar{x}_i < 0$ であることを意味する. このような i に注目する. 上記の ε は任意なので $\varepsilon = -\frac{\bar{x}_i}{2}$ と定義する. $x_i < 0$ なので $\varepsilon > 0$ である. ここで,

$$x_i^k < \bar{x}_i + \varepsilon = \bar{x}_i - \frac{\bar{x}_i}{2} = \frac{\bar{x}_i}{2} < 0$$

となるが, これは $\mathbf{x}^k \notin S$ を意味し, 点列の取り方に矛盾する. よって $\bar{\mathbf{x}} \in S$ でなくてはならず, S が閉集合であることが従う. \square